



社団法人鳥羽青年会議所の主催で10月10日、鳥羽パワーフード選手権が開催され、市内の8店舗と市外の2店舗が鳥羽の食材を使った料理で味を競いました。

また、魚魚まつりやとばーが一大集合も同時開催され、会場となった鳥羽マリンターミナルは、鳥羽の「うまいもん」で溢れました。

鳥羽が誇る食材と料理人の心が込められた「パワーフード」は、訪れたたくさんの人たちのお腹を満たし、笑顔を作り出していました。

鳥羽のうまいもんが勢ぞろい



10月17日、市は災害が発生した際に、復旧活動の相互協力を行うことを目的に、岐阜県美濃市と災害時相互応援協定を結びました。市庁舎で行われた締結式には両市の関係者20名が出席しました。

この協定は、市もしくは美濃市で、大地震などの災害が発生した場合、被災自治体の災害応急復旧活動のために「物資・機材の貸付け」「食料、飲用水、生活必需品の提供」「職員の派遣」など相互に応援協力するものです。

両市は面積や人口規模が似ており、同時に被災する可能性が低く、両市民の安心・安全につながるという考えから協定の締結に至りました。

災害発生時には相互に協力し合おう

まちの話題 1月号



9月25日、浦村町でカキの水揚げが始まりました。

今年は、東日本大震災による津波で養殖いかだの約半数に被害が出ましたが、懸命の修復作業が実り、例年の3～4割減にとどめて、3,000～3,500トンの出荷が見込まれているそうです。

水揚げされたカキは、主に名古屋や大阪に出荷され、水揚げは来年の3月末まで続きます。

カキの水揚げが始まる



9月に発生した台風12号で被災した東紀州地域を支援するため、市老人クラブ連合会（会長 中村和徳さん）が被災地へ生活物資を送りました。

各地区の老人クラブで集められたタオルや衣類、日用品などを「元気袋」と名付けた手提げバッグと共に、当初は東日本大震災で被災した福島県へ送る予定でしたが、三重県内でも災害被害が発生したことで、全国老人クラブ連合会からの依頼により熊野市の老人クラブ連合会へ送ることとなりました。

約2か月かけて集められた支援物資は、ダンボール約40箱にもなり、運送会社によって被災地へ届けられました。

被災地にまごころを届けたい